

## 産地生産基盤パワーアップ事業(収益性向上対策)評価書

都道府県名	事業実施地区数 (ア) <sup>※1</sup>	評価対象外地区数 (イ) <sup>※2</sup>	評価対象地区数 (ア-イ)	成果目標の平均達成率 <sup>※3</sup>	評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数	地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無	【参考】 評価対象地区数のうち、達成率80未満の地区数	評価対象外の地区がある場合、その代表的な理由	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
大分県	8	0	8	40.9%	5	有	5	-	<p>評価対象8地区のうち、5地区が目標未達成となった。                      要因として、労働力不足による収量減少や猛暑等の気象による生理障害、作業可能時間の短縮等により、目標達成に至らなかった。                      今後も引き続き、関係機関と連携し、面積拡大や販路開拓等を促し、販売額の増加を図る。</p>	<p>県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し40.9%であり、目標は達成されていない。                      このため、農政局から県に対し、成果目標の達成に向け要因分析及び改善措置の提出を求めるとともに、未達成の地域協議会及び取組主体に対しては、県担当者から指導を行うなど、県による主体的な取組を指導する。                      なお、大分県が改善措置を必要とした地区(達成率90%未満)の概要は、5地区である。</p> <p>〈参考: 成果目標未達成地区の概要〉  <b>【野菜】5地区</b>                      評価対象地区5地区とも目標未達成となっている。1地区は「集出荷コスト削減の目標」が未達成となっており、主な要因は、高温干ばつによる収量減及び人件費の増加であった。4地区は「販売額増加の目標」が未達成となっており、主な要因は3地区(いちご2地区、ピーマン1地区)においては夏季高温による収量の低下、1地区(えのき)においては病気(クラドボトリウム病)の発生による収量の低下であった。</p>

※1 評価年度を迎えた地区数を記載する。(中間評価は除く。)

※2 評価対象外地区数については、天災等の外部的要因により、評価対象と判断されなかったものについて記入する。

※3 小数点第1位まで記載する。(小数点第2位切捨て)

## 産地生産基盤パワーアップ事業(生産基盤強化対策)評価書

都道府県名	事業実施 地区数 (ア) <sup>※1</sup>	評価対象 外地区数 (イ) <sup>※2</sup>	評価対象 地区数 (ア-イ)	成果目標の平均達成率 ※3	評価対象地区数のうち、都道府県が地域協議会へ改善指導を必要とした地区数	地方農政局等から都道府県計画の改善指導の必要の有無	【参考】 評価対象地区数のうち、達成率80未満の地区数	評価対象外の地区がある場合、その代表的な理由	都道府県による総合所見	地方農政局等による総合所見
大分県	1	0	1	100%	0	無	0	-	本事業を活用した地域では、すべての地区において目標を達成しており、地力についての回復が進み、麦類の作付面積も拡大し事業成果が見えつつある。	大分県の成果目標平均達成率は、国が達成と判断する90%に対し100%であり目標は達成された。

※1評価年度を迎えた地区数を記載する。(中間評価は除く。)

※2評価対象外地区数については、天災等の外部的要因により、評価対象と判断されなかったものについて記入する。

※3小数点第1位まで記載する。(小数点第2位切捨て)